

NPO 法人速川活性化協議会様

## 事例：美味しい干し芋生産監視システムに Apoc を導入

### 【背景】

富山県氷見市速川地区では、2015 年から地域活性化の一環として、休耕地を活用してサツマイモを栽培し、その加工から販売までを行う 6 次産業化に取り組んでいます。



その中で、サツマイモを加工して、柔らかく美味しい干し芋作りを目指していますが、北陸の気候条件では、天日干しで生産することは難しく、乾燥炉で温度・湿度をコントロールすることで干し芋を生産しています。

高品質の干し芋を継続して生産するためには、乾燥炉内のデータの見える化が必要でした、と語るのは S&C 技研 代表の酒井氏です。

酒井氏は、本プロジェクト発足当初からシステム面をサポートする氷見市出身のプロジェクト責任者です。

プロジェクトを進めていく過程で課題として挙がったのは、下記の 3 点です。

### 【課題】

1. 乾燥炉内の温度・湿度は、各設定に基づいてコントロールされているが、実際の状態は想定通りだったのか、後で確認することはできない。
2. 品質の改善をしたいと思っても、環境条件に関する必要なデータが残っていない。
3. 乾燥炉の状況は、現地メンバーしか確認できず、特定メンバーに負担もノウハウも偏ってしまう。

### 【酒井氏のコメント】

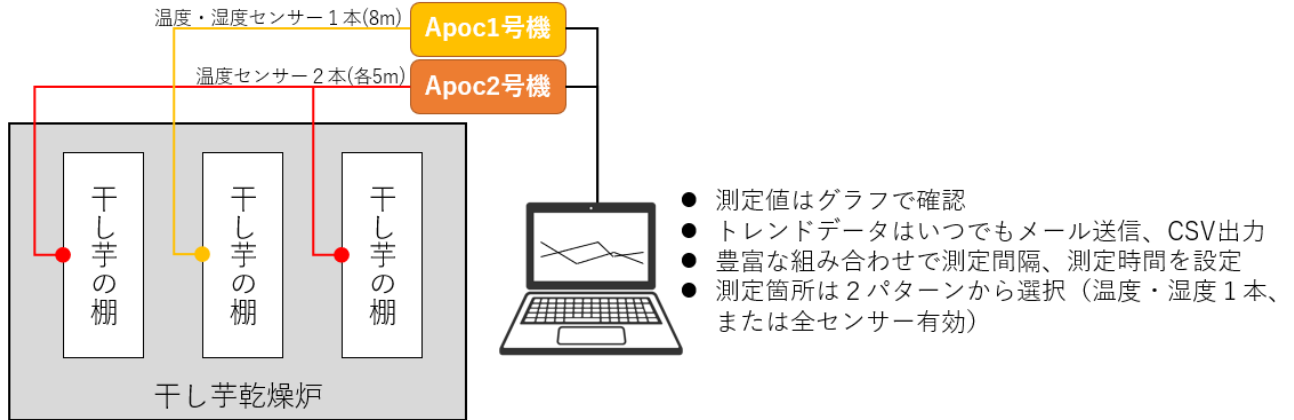
見える化の検討を開始して 1 年以上、相談したのは 4 社目ですが、全ての要件（機能、コスト、納期）を満たすベンダーは Zion さんだけでした。

2022 年 4 月に仕様打ち合わせを開始して 6 月に発注、10 月初め納品と約半年で満足度の高い「干し芋生産監視システム」の仕組みが出来上がりました。

Apoc のインターフェイスは汎用的で柔軟なハードウェア構成を取ることができて、パソコンでデータをグラフ化できる基本アプリケーションも付属するため、使用者側の要件を満たすことができたと思います。

11 月には出荷イベントがあり、間に合うことができて関係者共々感謝しています。

本プロジェクトの干し芋が地元名産の仲間入りができるよう Apoc を活用していきたいと思っています。

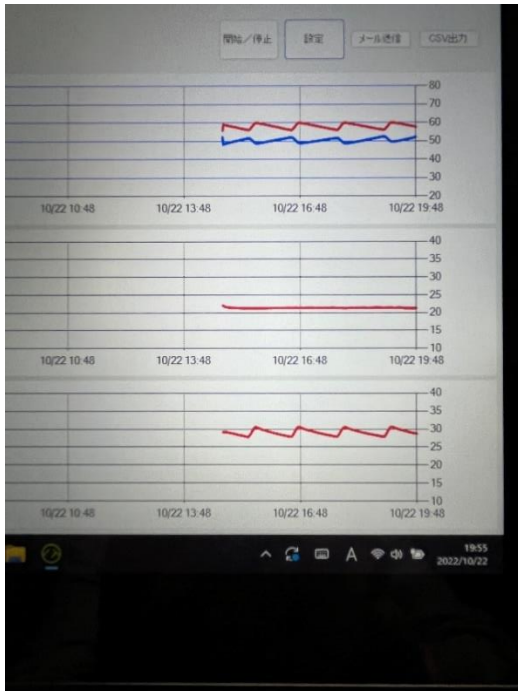
**【システム概要】**


今回のポイントは「柔軟なデータ出力（測定箇所、測定間隔、測定時間は可変）」「データは現地メンバー以外と簡単に共有可能」「コスト」の3点でした。

いずれも本プロジェクトは要件を達成することができました。

また、現地メンバーはパソコン操作に慣れないためアプリケーションのボタンを大きくしたり、用語を見直したり、ユーザインターフェースを改良しました。

**【Apoc のアプリケーションを操作するパソコン】**


**【Apoc のアプリケーション画面】**

**【問い合わせ・相談】**

Apoc はハードとソフトを含めた製品ですが、センサーを組み替えることで幅広い用途で活用することが可能です（カスタマイズは必要）。簡単、迅速にデータを見える化したい、データを収集したいなど、Zion 株式会社までお気軽にご相談ください。